

<霊的備え>

神よ 私はあなたを呼び求めました。あなたは私に答えてくださるからです。
私に耳を傾けて 私のことばを聞いてください。あなたの右の手で
奇しい恵みをお示してください。向かい立つ者どもから 身を避ける者を救う方。
瞳のように私を守り 御翼の陰にかくまってください。 (詩篇 17：6-8)

<理解の手引き>

アベルは兄カインによって殺され、そのカインも罪の結果、アダムとエバのもとを去って
いきました。このことは、アダムとエバにとって、どんなにかつらく、悲しい事であった事
でしょう。そのような二人にとって、セツの誕生は、大きな慰めでした。

セツという名前は、「置く、備える」という意味があります。アベルの代わりに、アベルの
信仰を受け継ぎ、彼の使命を果たすべき者として、神がもう一人の子セツを授けてくださっ
たのです。

このセツにも男の子が生まれ、その子をエノシュと名付けました。これは「人」という意
味で、人の持つ「弱さ、もろさ」をあらわしています。つまり、人は神なしには全く弱くて
もろい、死すべき存在だという認識がここに 있습니다。この弱さを人が自覚した時、主の御
名による祈りがうまれてくるのです。

<考えてみよう>

(観察) セツはどのような人でしたか。その人となりをおいてみてください。

.....
.....
.....
(解釈) 「主の名を呼ぶことを始めた」(26 節) とは、神との関係において、どんな意味が
ありますか？

.....
.....
.....
(適用) あなたにとって、祈りとは何でしょうか？

<心に残ったみことばや気づき>

.....
.....
.....
<今日の祈り> (教えられたことを短い祈りで表す)